

「省エネ市民会議」					
会議年月日	27年7月3日	時間	13:30 ~ 16:00	場所	流山市生涯学習センター(3F)
出席者	平手、春田(記)、加藤、難波、高橋、服部、青木 (ホワイトボードに向かって時計回り順に記載、敬称略)				
議 題					
7月度「省エネ市民会議」を開催した。					
1, 2030年にCO2削減26%(2013年比)は可能である(講師:平手 彰)					
①COP21に向けて日本のCO2削減目標値が決まった。(2030年に2013年比で26%削減)					
②一方、電力の需要量は2030年で2013年比33%増と見込まれている。					
③対応策として、電源構成の見直し(下記)、新たな省エネ(産業界:-7%、民生部門:-40%)としている。 LNG=43%を27%、石炭=30%を26%、再エネ=11%を23%、原発=1%を21%、石油=15%を3%					
④民生部門の40%削減策は、既存の省エネ技術(建屋の断熱、家電品の取替..)で可能である。					
⑤市民の「志」が行動につながるかである。					
<課題>					
「瓶ビールから缶ビールに変わって来ている」、「2016年から電力の自由化となる」その中で、市民のエコマインド(割高であるが再生可能エネルギーの購入など)を、どのように醸成するか。					
2, 今の冷蔵庫は10年前と比べると72%の省エネと言っているが..(講師:春田育男)					
①2014年製冷蔵庫は-72%省エネ(対2004年)と公表。(スマートライフおすすめBOOK/2015年度版) 2004年(目安):610~680kWh/年(旧JISで測定した値を新JISに換算した値でカタログ値ではない) 2014年(目安):170~190kWh/年(新JISで測定したカタログ値としているが機種名は不明) *2004年の最小値(610)と2014年の最大値(190)だと-69%となる。					
②冷蔵庫の規格は、カタログ値が実測と合わないとして過去に何度も変更されている。 A法(~1994年)、B法(1995年~1999年)、旧JIS(2000年~2006年)、新JIS(2007年~) *A法の値は、新JISに比べて約1/6となっているので単純比較は出来ない。					
③1998年製(東芝:GR-Y40KC)と、2011年製(日立:R-SF48BM)を実測したら-53%であった。					
④2011年製(日立:R-SF48BM)は、カタログ値(200kwh/年)と実測値(338kwh/年)で乖離していた。					
<日本電機工業会(JEMA)の見解>					
カタログ値との違いは、使用方法や使用頻度、周囲温度や庫内温度設定などの違いによるものと推察します。					
JISの試験方法では、自動製氷機の使用、扉開閉、負荷の投入などを行い実使用を考慮しておりますが、それでも全てのご家庭の使い方を反映することは難しく、使い方による差が出ているものと推察します。					
*実測データなどはHP( <a href="http://www.na-shimin.org/w2/obn/index.html">http://www.na-shimin.org/w2/obn/index.html</a> )に掲載します。					
次回の予定:					
2015年8月7日(金)13:30~15:30 生涯学習センター(3F)大会議室 テーマ未定 以上					